

巻頭言

健康科学部長 久保金弥

2005年中央教育審議会における「我が国の高等教育の将来像」の答申を皮切りに全国の大学が社会貢献を意識するようになりました。また、総務省も学生と教員が地域の課題解決や地域づくりに取り組み、地域の活性化及び地域の人材育成に寄与する「域学連携」活動を推奨しています。これらの政策を背景に、各大学ではゼミ単位や学科、学部単位で地域活動を行うことで大学の特色化を目指してきました。

本学健康科学部では、学部共通の学習概念である“食と健康”に根ざした地域活動を行っています。今年度は、4年生と株式会社ミノカンとの料理コラボ企画や名古屋市食育推進計画に基づいた朝ご飯を食べようプロジェクトなどを行いました。また、地域の方々の健康維持増進を目的とした名女健康サロンを行っています。昨年度と今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止を余儀なくされました。健康科学部では、来年度新設される医療科学部の学生たちや教職員の協力を得ながら“食と健康”に基づいた地域活動をさ

らに発展させていきたいと考えています。

学園全体では、越原記念館の展示企画や図書館での学生ボランティアによるおはなし会、総合科学研究所による瑞穂児童館でのクリスマスイベントなどを実施しました。また、各学部では学部の特色や教員の研究テーマを反映した地域活動が継続的に実施され、学生たちもこれらの活動に積極的に参加することで、日々の授業による学びの蓄積⇒応用⇒実践のループ学習を実践しています。残念なことに、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、附属中学校高等学校の活動を含め13(38.2%)の企画が中止されました。

新型コロナウイルス感染症の収束・終息の見通しが立たず、感染症の影響が長期化することを覚悟せざるを得ません。今後は、“with コロナ時代”の地域活動の実施方法を模索しながら、本学園らしい地域活動を実施して学園の特色化を創造していきたいと考えています。

健康科学部

令和3年度4～7月実施

4年生と株式会社ミノカンとの料理コラボ企画

食物栄養学科4年生の堀内玲奈さん、宮田歩奈さん、山田彩加さんの3人は、基礎栄養学ゼミナールで大麦糠添加パンを研究しています。今回3人は、佃煮の製造・販売を行う株式会社ミノカンの商品を使用して料理提案を行うコラボ企画に参加しました。3種類の佃煮に対して各2品の料理提案を行い、そのうち各1品は研究する大麦糠添加パンを使用した料理としました。4月にレシピ作成を行い、5月に試作と料理の改良を行い、6月にはミノカンの方々と検討して料理を決定しました。決定した料理6品について、7月に学内で料理作成と試食の動画撮影を行いました。



真剣な表情で動画撮影中



動画撮影が終わって、料理を前にみんなで記念写真を撮りました

この動画とレシピはミノカンのホームページで公開され、動画はYouTubeでも配信されていますので、ぜひご覧ください。参加した学生たちはコラボ企画を通して、卒業演習の内容を充実させるとともに貴重な経験ができました。

(文責：小出あつみ)

健康科学部

令和3年度実施

「朝ごはんを食べよう」プロジェクト

朝食の欠食や栄養バランスの偏りがある「若い世代への食育」を推進している名古屋市と栄養教育ゼミナールが連携し、SNSを活用した若者に対する朝食摂取の啓発に取り組みました。学生が主体となり、啓発方法や投稿内容を市に提案し、おすすめのコンビニ朝食や時短レシピなど、毎週、様々な投稿を行い、閲覧者全員に朝食摂取意識の向上が認められました。今後も社会のニーズに合わせた食育で、地域の健康増進に取り組んで参ります。

(文責：近藤志保)



名古屋健康福祉局健康部健康増進課食育担当者との打合せの様子

● 家政学部 令和3年度実施

「ファミリーデーなごや」に エシカル消費啓発動画を出展

生活環境学科消費者教育に関するゼミとサークルの学生が、エシカル消費啓発動画を撮影し、名古屋市主催「ファミリーデーなごやオンライン」に3編の動画を提供しました。タイトルは、「お家でできるエシカル消費」「いっしょに作ろう！エシカル料理」「自分だけのオリジナルエシカルバックを作ろう！」です。

「ファミリーデーなごや」は、家庭の大切さ、家庭の役割の素晴らしさについて、考えを深める「家庭の日」の普及啓発を推進する活動の一つです。

今後も家庭で簡単に実践できる取組みを工夫し、名古屋市や地域と協働し、積極的にエシカル消費の啓発を継続していきます。

(文責：三宅元子)



動画を閲覧している様子
(サイトの公開期間：令和4年3月31日まで)

● 文学部 令和3年度(5回)実施

名古屋土曜学習プログラム

児童教育学科では、名古屋市教育委員会の名古屋土曜学習プログラムに連携・協力して、教員がそれぞれの専門とする研究を基にした体験授業を、小学校の土曜授業として提供しています。令和3年度は名古屋市の三つの小学校(自由ヶ丘小学校、極楽小学校、植田南小学校)で計11回の授業の提供を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、結局、計5回の授業提供となりました。実施した回では、感染対策を徹底した中、児童の生き生きとした楽しい体験授業ができました。学生も、年間を通して土曜学習いきいきサポーターとして積極的に加わってもらい、登録98名の学生は土曜授業の補助として児童と関わる機会を多く持ちました。数多くの参加とはいきませんでした。教員を目指す学生にとっては児童と関わる良い経験となっています。

制限のある中での授業提供となりますが、できる限りの児童への楽しい授業提供を次年度も継続して行う予定です。(文責：吉川直志)



土曜学習プログラムの様子

● 家政学部 令和3年度実施

イオンリテール株式会社、株式会社船場と 産学協定を締結

家政学部生活環境学科建築設計意匠ゼミはイオンリテール株式会社(左記よりプロパティマネジメントを受託しているイオンモール株式会社)、株式会社船場と産学協定を結び、イオンモール熱田の大型活性化計画推進のために昨年秋より現場見学、類似施設視察、素材研究など様々な活動・提案を行ってきました。

地域インフラとして周辺住民から必要とされる存在となるべく思慮するイオンさんにとって未来の消費者である学生が何を欲し、どんな空間が良いのか提案を受けてみたいということでこのコラボが実現しました。

多くの商業施設の設計・施工を手がける船場の中部支店さん、レゾナンス・ラボさんから厳しくも温かいアドバイスを沢山いただきながら学生はイオンモール熱田の与えられた場所(まだ秘密です)についてどうあるべきか議論を重ねてきました。図面や3DCGを用いて提案書を作成し、それを船場さんにプレゼン



12月の中間発表風景



船場中部支店にて素材の研究とエスキス中

では指摘を受け、修正を繰り返して、昨年12月末に中間プレゼンを行い、最終プレゼンを3月に行うべく学生は奮起して提案資料を作成中です。実践的環境で学んだ学生は今後社会で活躍してくれることを期待しています。

(文責：岡村裕次)

● 文学部 令和3年12月13日実施

尾張旭市子育て支援センター クリスマスコンサート

2021年12月13日(月)尾張旭市子育て支援センター「すくすく双子三つ子サロン」で、文学部 音楽教育・表現ゼミナール(坪井)の学生によるクリスマスコンサートが行われました。双子、三つ子ちゃんの親子28名が参加し、トーンチャイムアンサンブルによる「きよしこの夜」「サンタが町にやってきた」「さんぽ」「カントリーロード」等聞き覚えのある曲が演奏されました。曲間には、フランス民謡「しずかな鐘の音」と日本の「グーチョキパーで、なにつくろう～」の替え歌についての解説と共に、クリスマスにちなんだ簡単な手遊びも紹介しました。子ども達

は、曲が始まると一緒に踊ったり、手拍子したりする姿もみられ、トーンチャイムの優しい響きでクリスマスを楽しむ時間となりました。コンサートの最後にはサンタクロースが現れ、子ども達は、思わぬサンタの出現に大喜びでした。ゼミナールでは、音楽表現を通して、貴重な経験の場となる地域でのボランティア活動を、今後も積極的に行っていく予定です。

クリスマスにちなんだ手遊びの様子



音楽教育・表現ゼミ

(文責：坪井眞里子)

● 短期大学部・生活学科・保育学科

令和3年度実施

学生による「オレンジリボン運動」の実施

短期大学部では生活学科と保育学科でオレンジリボン運動に取り組んでいます。オレンジリボン運動とは、「子ども虐待防止」の象徴としてオレンジリボンを広める市民運動です。

生活学科では、大学図書館で、メッセージカードをリボンやリースとして飾りました。学生が作成したオレンジリボン運動のポスターも展示し、図書館を訪れた人にメッセージカードを書いてもらうことで関心と賛同を広げています。

学生からは、「展示の方法や構成を自分たちですべて考え、実際に作成することは難しかったです。しかし完成できたときの達成感はすばらしいものでした。また、オレンジリボンについて詳しく調べることによって新たな知識が増え、今までとは違った見方ができるようになりました。私たちの活動によって少しでも多くの子どもの心が救われたらと願っています。」という声が聞こえてきました。

保育学科では、昨年に引き続きメッセージカードを瑞穂区役所に設置されたツリーに飾り、区役所を訪れる皆さんの目を楽しませました。

(文責：箕浦恵美子)



メッセージカードを準備中



図書館ギャラリーへのポスター掲示をする学生

● 短期大学部・保育学科

令和3年度実施

「さくらひろば」での読み聞かせ

保育学科第三部3年生の学生が瑞穂区子育てサロン「さくらひろば」で手遊びと絵本の読み聞かせをしました。発表では、オノマトペを楽器や身体で表現することで、お話の世界をより楽しむ工夫をしました。0歳から3歳までの子どもたちとお母さんは、学生と一緒に「ぼん」と手をたたいたり、「にこっ」と笑顔で顔を見合わせたりして存分に楽しんで下さいました。学生は子どもたちの反応に手応えを感じ、貴重な経験をすることができました。

(文責：白石朝子)



みんなで「ぼん」

● 大学図書館

令和3年度実施

「学生ボランティアによるおはなし会」

大学図書館、瑞穂図書館共催の「学生ボランティアによるおはなし会」について、令和3年度もコロナウイルス感染状況をみながら開催しています。今年度は継続するコロナ渦で中止となった月があったことや、感染予防対策として、入場者の人数制限を行ったことなどから、開催ができた月は開催回数を2回にするなど、より多くの子どもたちを楽しんでもらえるよう工夫をしながら取り組みました。コロナ禍が続く中、参加学生にとってはおはなし会での実演機会がなかなか得られない状況が続いていますが、学外活動ができない期間は学内で行う読み聞かせの研修や自主練習など、積極的に自己研鑽に取り組んでいます。

本取り組みは瑞穂図書館との共催事業として、平成29年の開始より今年度で5年となり、今では瑞穂図書館の定例催事として浸透し、毎月のおはなし会を楽しみに来場される方もあります。学生にとっても社会経験を通じた学びの場となっており、今後も地域貢献活動として、瑞穂図書館と連携を図りながら取り組みを続けてまいります。

(文責：尾崎友子)



12月のおはなし会



学内での研修会

● 公開講座

令和3年11～12月(3回)実施

食事や栄養を見つめ直し、フレイルを防ぎましょう!

オープンカレッジ事務室では毎年名古屋市瑞穂生涯学習センターと共催の「公開講座」を実施しています。今年度は「食事や栄養を見つめ直し、フレイルを防ぎましょう!」をテーマに、瑞穂生涯学習センターで健康科学部教員による講演を11月から12月にかけて全3回行いました。定員いっぱいの25名の方にご参加いただき、健康の維持増進のために必要な食事や栄養、運動等を学んでいただきました。今後も地域の方々と交流を深めることができる地域貢献事業に取り組んでまいります。

(文責：山本英里名)



公開講座の風景

開かれた地域貢献事業

総合科学研究所が推進する「開かれた地域貢献事業」として、瑞穂児童館と瑞穂保健センターとの連携事業は15年目となり、瑞穂区役所との連携事業は4年目となりました。本年度もコロナ禍での活動となり、保健センターとの共催事業は残念ながら実施を見送りましたが、昨年度の活動実績を生かして多くの講座・イベントを開催することができました。

瑞穂児童館との共催事業では、地域の子どもや保護者を対象とした保育・教育、生活・情報関係の8つの講座と、12月のクリスマスイベントを無事に開催することができました。

瑞穂区役所との共催事業では、育休復帰前の保護者の支援を対象とした調理の講座をオンラインで開催しました。



親子で楽しむ音楽あそび

感染対策のため例年より定員を絞っての開催となりましたが、どの講座にも多くの申込をいただきました。今後とも一層地域の公共施設との連携を深めながら、安全な地域貢献事業を継続して参ります。

(文責：総合科学研究所事務)



影絵を使ったおもちゃ作り

包括連携協定先 瑞穂区役所による大学の取組の点検・評価

本学では、令和元年度から包括連携協定先の瑞穂区役所により、教育の質保証の一環として、大学が実施する取組の点検・評価を受けています。今年度は家政学部長兼 IR 室長の白井教授より「教育課程の設計と質保証」について、カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）に基づき、シラバス作成から実際の授業、成績評価へと繋がっていく過程を具体的に説明した他、学修成果の分析、大学入学者選抜にかかる背景についても紹介し、点検・評価を受けました。

大学にとって、地域社会など外部の評価を得ることは、教育に客観的な視点を取り入れる契機となり、地域社会にとっては、大学がどのような方針で教育を行っているかを検証することで、大学との間で育成すべき人材像の共有や、相互に連携した取組が可能になり、大学と社会との接続が改善されるという意義があります。

今後も学修者本位の教育を実施し、質保証のための取組を継続してまいります。
(文責：各務佳子)



「教育課程の設計と質保証」



「大学入学者選抜にかかる背景」

「学生作品選抜展2022」から3作品 中部デザイン協会の「卒業制作奨励賞」を受賞

越原記念館において8月14日まで開催中の企画展「学生作品選抜展2022」では、建築・工芸・インテリアデザイン・服飾デザイン・美術教育教材・情報教育教材など多彩な分野から、名古屋女子大学家政学部生活環境学科、文学部児童教育学科、名古屋女子大学短期大学部生活学科・保育学科の学生たちの作品を一堂にご覧いただけます。

本作品展の中から卒業制作3作品が中部デザイン協会「WEB 卒業制作奨励選抜展」奨励賞を受賞しました。中部エリアの芸術関連大学等から令和3年度の卒業制作として選抜された作品に授与されるもので、これら作品は卒業後も同協会の Web サイトで1年間公開され、学生たちの制作の励みとなっています。

(文責：鈴木孝子)



「effortless sport
-Jamaica-」
短期大学部生活学科卒業
望月 鈴



「想像力や表現力を豊かにする玩具
-音と光を楽しむキッチン-」
文学部児童教育学科卒業
外山美古都



「廃材を用いたモザイクアート」
文学部児童教育学科卒業
家城美来

※上記作品は、越原記念館企画展「学生作品選抜展2022」(2022.3/12～8/14)にて展示しています。

編集後記

地域連携ニュースレター第5号をお届けします。ご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。新型コロナウイルスへの感染対策が必要とされる中、令和3年度も多くの地域連携活動について報告することができました。「名古屋土曜学習プログラム」や「絵本おはなし会」は感染状況に合わせて実施方法や内容を検討しながら継続的に実施されています。また、「イオンモール熱田リニューアル計画」や「ミノカンの料理コラボ企画」といった企業との新しい連携活動も行われました。参加した学生は、達成感とともに社会貢献するために大学で学ぶことの意義を実感できたのではないのでしょうか。今年度はいよいよ医療科学部の開設です。また新たな地域連携のスタートが期待されます。

(文責：山中なつみ)